

新型コロナウイルスの次世代型 mRNA ワクチンである「レプリコンワクチン」に反対します

昨年(2023年)11月24日、新型コロナウイルスに対する新タイプの mRNA ワクチンである「レプリコンワクチン」(Meiji Seika ファルマ株式会社「コストイベ筋注用」)が、世界に先駆け国内で承認されました。65歳以上の高齢者および60～64歳で重症化リスクの高い人を対象として、今年(2024年)秋・冬の定期接種で使用するものと思われます。

レプリコンワクチンは、接種されたヒトの細胞内で mRNA が自己増幅するよう設計されており、既存の mRNA ワクチンより少量の接種で高い中和抗体が長期間持続するとされています。しかし、私たち「全国有志医師の会」は、下記の理由によりレプリコンワクチンの使用に反対を表明いたします。

1. 「次世代型」などと呼ばれていますが、「mRNA-LNP(スパイクタンパクの設計図が書き込まれた mRNA を LNP=脂質ナノ粒子で包んだ構造)」というプラットフォームを応用している点は、従来の mRNA ワクチンと変わりありません。LNP が激しい炎症反応を引き起こすとともに、スパイクタンパクも血栓症を誘発するなど、さまざまな毒性が指摘されています。またスパイクタンパクを発現した細胞は自己の免疫から攻撃を受け、様々な自己免疫疾患や細胞障害、臓器障害を引き起こすことも明らかになってきました。

それゆえレプリコンワクチンによっても、従来の mRNA ワクチンと同様の健康被害が起こることは十分に予想されます。国の「副反応疑い報告」の報告数や「予防接種健康被害救済制度」の申請数を見ればわかる通り、mRNA ワクチンによってワクチン史上最大の健康被害が起こっていることは明白です。にもかかわらず、その真相究明や被害救済を置き去りにしたまま、新規機序のワクチンを実戦投入することは許されるものではありません。

2. レプリコンワクチンは従来に比べ少量接種で済むため、副作用が少ないかのように言われています。しかし、mRNA の自己増幅やスパイクタンパクの産生がどれくらいでストップするのか十分にわかっていません。人によっては、従来の mRNA ワクチンより大量のスパイクタンパクが産生されてしまい、これまで以上の重篤な健康被害が及ぶ危険性も十分に予想されます。

3. レプリコンワクチンによって産生された mRNA やスパイクタンパクが細胞膜の一部をまとめて「エクソソーム(細胞外小胞の一種)」等として飛び出し、ウイルスが感染するように非接種者にも広がってしまうと指摘する研究者もいます。そうした現象がどれくらいの頻度で起こり得るのか解明はされていませんが、懸念が十分に払拭されているとは言えません。

治験(第Ⅰ～第Ⅲ相臨床試験)で安全性と有効性が検証されたとしても、新規の医薬品の本当のリスクは、実臨床で多くの人に使用されて初めて明らかになります。それは、これまでの新薬の歴史が繰り返し証明しており、新型コロナワクチンについても同様です。

国に対してレプリコンワクチンを含む新型コロナワクチンの承認取り消しと使用中止を求めるとともに、国民のみなさまにも、レプリコンワクチンであるかどうかにかかわらず、「新型コロナワクチンはこれ以上接種しない」ことを、当会としてあらためて呼びかけます。

2024年5月18日

全国有志医師の会(代表 藤沢明徳)